開催報告　　令和５年度 子ども読書活動推進事業

《 学校・図書館・ボランティア連携研修会》

【趣旨】
いつでもどこでも、すべての子どもたちが楽しく読書できるよう、特に子どもに身近な学校図書館の利用を促進するためには、学校および学校図書館、公共図書館、行政関係者、読書ボランティア等が相互に連携していくことが不可欠です。県教育委員会では、学校図書館の更なる活性化を図ることを目的として、学校図書館の特徴的な実践を学び、これからの子どもの読書活動支援について意見交流を行う研修会を開催しました。

【日　時】　令和５年11月14日（火）13：30～16：20
【会　場】　米原市役所１階コンベンションホール
【参加者】　76名（会場35名、オンデマンド41名）
（小中学校・義務教育学校の管理職、学校図書館の担当教諭、学校司書、公立図書館職員、読書ボランティア、学校図書館の行政担当者など）
【内　容】　① 県の取組の案内
「こども としょかんの取組について」
滋賀県教育委員会事務局生涯学習課・幼小中教育課、図書館　職員

② 講演
演題「心をはぐくみ、学びを支える学校図書館」
講師：全国学校図書館協議会参事　　山田 万紀恵（やまだ まきえ）　氏

③ パネルディスカッション「お互いを活かし合う学校図書館づくり」
コーディネーター：米原市立図書館長　　梶川 幸太郎（かじかわ こうたろう）　氏
パ ネ リ ス ト：全国学校図書館協議会参事　　山田 万紀恵（やまだ まきえ）　氏
愛荘町立図書館司書　　諫山 美奈（いさやま みな）　氏
米原市・長浜市学校司書　　今中 雅美（いまなか まさみ）　氏

● 県の取組の案内
第５次子ども読書活動推進計画として検討を進めている「こども としょかん」の目的や目指す姿の案を生涯学習課員から説明するとともに、これまでの活動について県立図書館や幼小中教育課の職員から紹介を行いました。今年度末の策定に向けてスケジュールを説明し、併せて 12月に実施する県民政策コメントについて案内しました。

● 講演
山田先生による御講演は、学校図書館の意義や目的を押さえ直すところから始まり、小中学校の教育において学校図書館がどのような役割を果たすのかを、学校図書館法や実践の裏付けをもとにお話しいただきました。学校図書館の活性化に向けては学校（司書教諭）と学校司書の両輪

こそが大事であり、読書ボランティアは学校司書の代わりにはならないということを、力強いお言葉で語っていただきました。

司書教諭と学校司書による体制を整備した上で、読書ボランティアや公共図書館が学校図書館とどのように連携していくとよいか、それぞれの役割の違いについても御説明がありました。様々な立場の参加者が学校図書館に関わっていくときに、留意したい点や大事にしていきたい点を再確認することのできる御講演となりました。

● パネルディスカッション

公共図書館司書や学校司書として勤めている方々をパネリストに迎えて、学校図書館を活性化していくためにどうすればよいのか、意見を交わし合うパネルディスカッションを実施しました。参加者から事前に募っておいた困り事や課題意識をもとに、これからの連携の在り方や学校教育における ICT 化への対応などについて議論を深めていただきました。

学校司書、公共図書館司書、読書ボランティアそれぞれの視点から、パネリスト自身が活動する中で感じている悩みや考えを受講者の皆さんと共有することで、自分事として理解しやすく、また、異なる立場の方々がどのような思いで活動をしているのかを知ることができるパネルディスカッションとなりました。

● 参加者の感想

○ 講演

滋賀県の現状や最新の調査結果を踏まえながらお話いただき、学校・図書館・読書ボランティアそれぞれの立場から課題意識が浮かんだという御意見が多く寄せられました。

- ボランティアさんとの連携について、悩んでいる部分があったが、すみわけ、役割、研修の重要性について再確認できた。
- 「課題が見える」ということは、これから良くなるためにとても大事なものであると知り、より良くしていけるよう頑張っていきたいと思った。たくさん良い事例を知ることができて、収穫の多い研修だった。
- 日頃から、司書教諭と学校司書、公共図書館の連携が必要だと感じている。今日さらにその思いが強くなった。
- ひとつひとつのお話に納得でき、時間が足りないくらいだった。熱のあるお話はとてもよかった。やはり、学校の先生方もいっしょにきいてほしいと思った。
- 連携の大切さがよくわかる。が、現場の忙しさ、生徒指導等が山積みの中で話し合いが充分できる環境にないのが問題。

など

○ パネルディスカッション

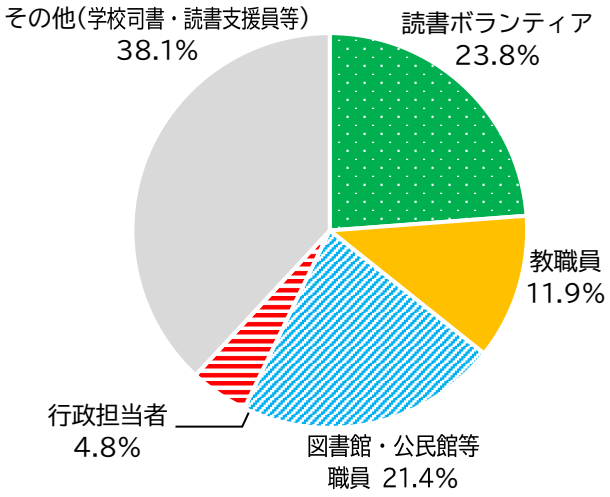
事前に募集した質問に対し、異なる立場の方々から話をしていただいたことで、それぞれの取組や考えなどを共有できたとともに、今後の活動に向けての後押しになったなどの反響がありました。

- パネルディスカッションが現場状況等わかりやすく、勉強になった。ボランティアと学校司書の仕事の内容の違いがわかった。
- 今できることで全力を尽くしてよいという気持ちになった。職責とかボランティアの領分とか、どこまで入り込むべきかという悩みについても、今日のお話を伺って、学校現場において主体となるべきは先生方というあたり前に立ちかえることができた。
- 学校司書・公共図書館司書の方など、それぞれの立場から見た学校図書館のありかた・考えを知ることができて良かった。現場のニーズを丁寧に聞き取りながら、子どもを中心とした図書館を作っていきたいと思った。
- パネルディスカッションでいろんな方のご意見を伺えて良かった。

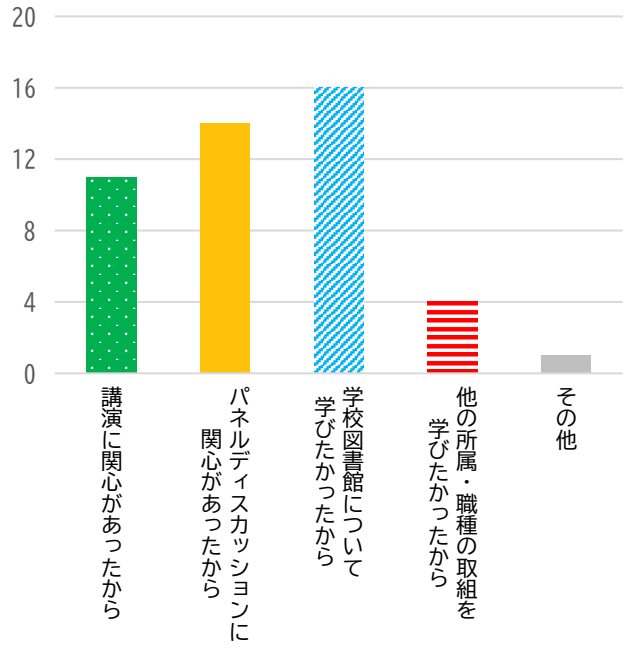
など

● 参加者アンケートの集計結果（n＝39）

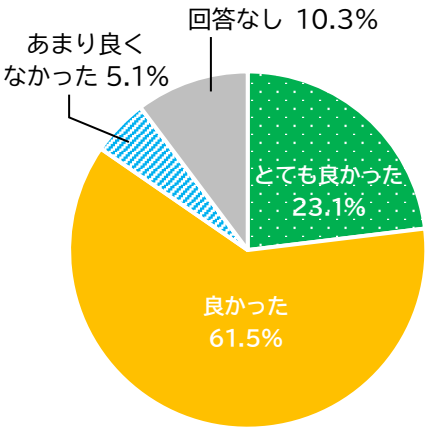
参加者の所属・職種
（複数回答可）



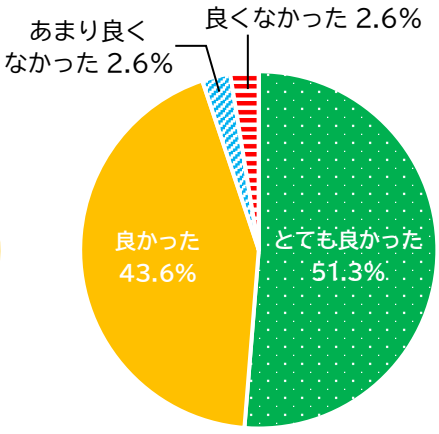
参加の動機（複数回答可）



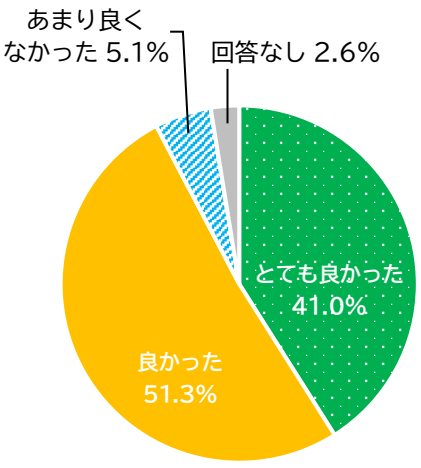
満足度評価



県の取組案内
※動画配信対象外



講演



パネルディスカッション